

令和8年度予算案について

横浜市

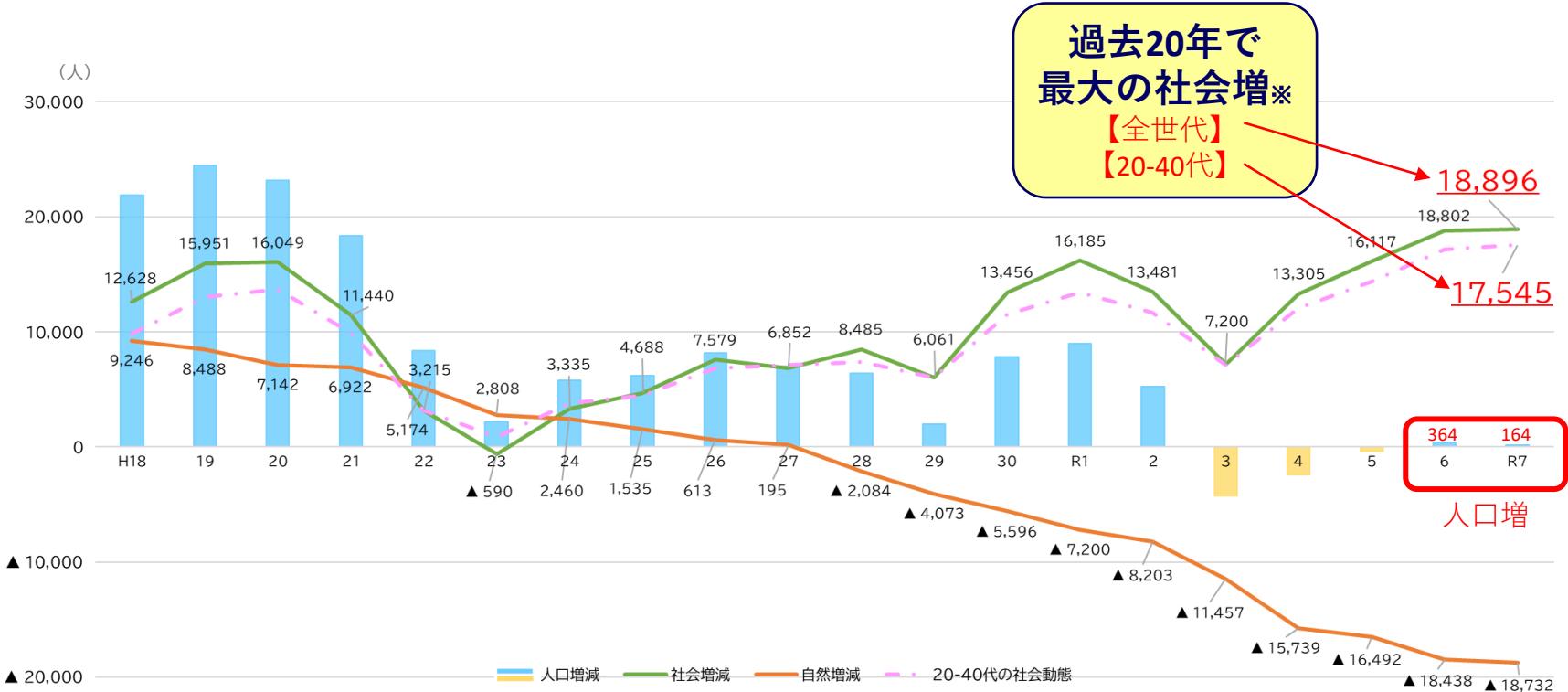
令和8年1月26日

横浜市 令和8年度 予算案

令和8年1月26日



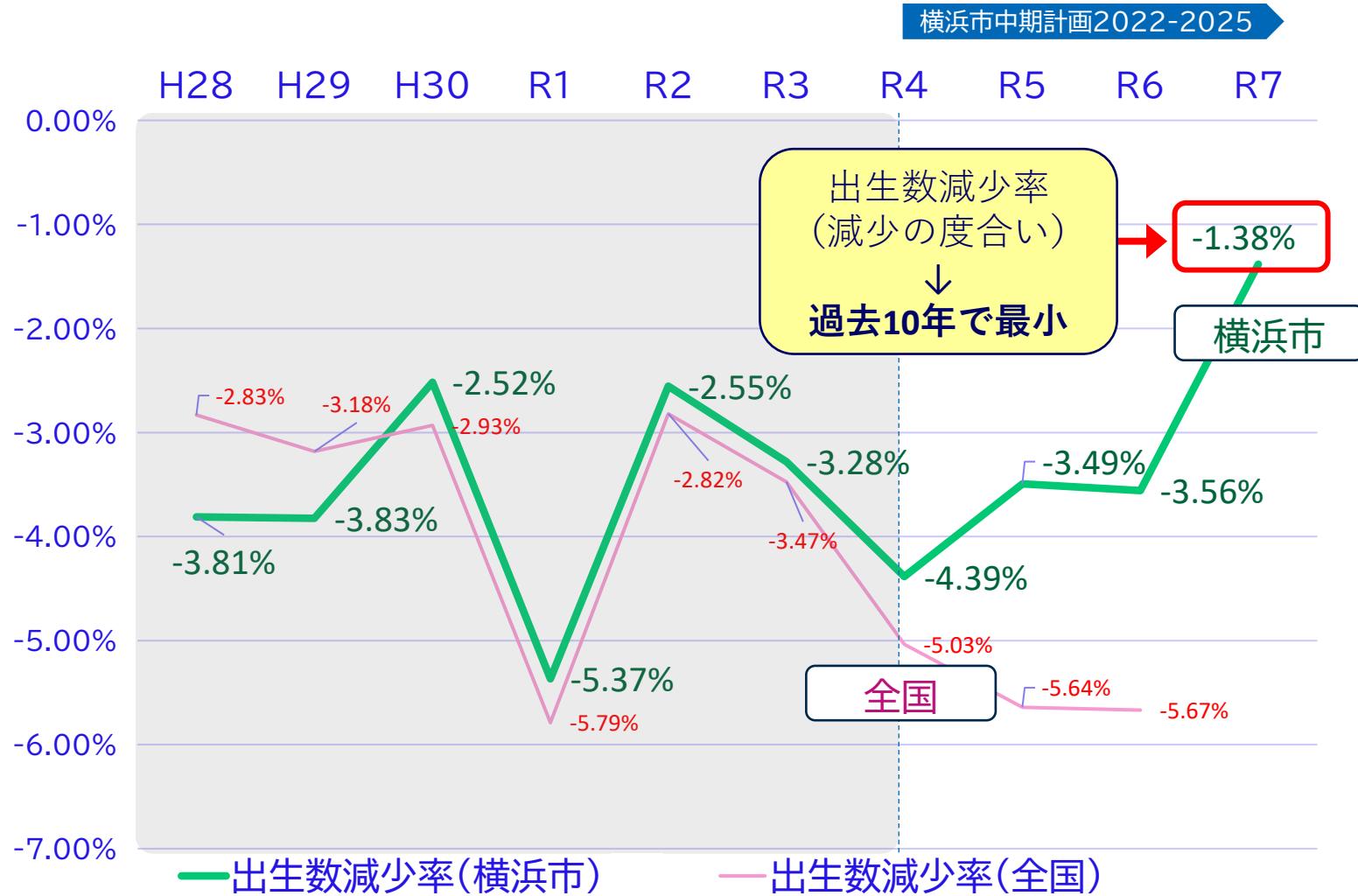
2025（令和7）年、4年ぶりの人口増となった令和6年に続く2年連続の人口増に



※市外からの転入者と市外への転出者の差等

はじめに ~横浜市の人口の推移~

■出生数減少率 10年間推移



令和8年度予算案の特徴

市民のニーズを予算編成につなげる ➞ 市の施策を**市民の実感**へつなげる

さまざま
市民ニーズの把握、
それに基づく指標の設定

あらゆる機会を捉えた
市民意見の把握
市民生活・needs調査では
市民の皆様の暮らし・生活の困り事等、
市民意見の把握

デジタルプラットフォーム
市民・行政・企業等を結び付け、
地域のニーズ・課題の把握

市長と語ろう！
地域で活動している団体等の皆様から
お話を伺い、市政運営に活用



横浜市中期計画
2026-2029(素案)

市民生活の
安心・安全

横浜の持続的な
成長・発展

データ
経営の
体系的
推進

市の施策を**市民の実感**へつなげる

令和8年度予算

1 物価高騰対策

2 安心・安全な暮らし

3 こどもと向き合うゆとりの創出

4 魅力あふれる心地よいまち

5 世界に誇れる都市づくり

↑ 今日の
困りごと
・不安
↓ 未来への
希望

令和8年度予算案の特徴

1 物価高騰対策



直接給付

- ・19歳以上へ**5,000円**相当の電子クーポン又は商品券の給付

給食費負担軽減

- ・小学校: **実質無償化**
- ・中学校: **値上げなし**

消費の下支え

- ・プレミアム付商品券

市民の皆様全員に
いきわたる、
効果を実感できる
支援を

2 安心・安全な暮らし



防犯

- ・「暗がり」の解消
- ・防犯カメラ設置
- ・宅配ボックス

防災

- ・地震防災戦略
- ・次世代防災リーダーの育成

医療・福祉

- ・がん対策
- ・高齢者の安心を支える取組

交通

- ・敬老バスと
新たな地域公共交通の推進

日々の暮らしの「安心」「安全」
の実感へ

3 こどもと 向き合う ゆとりの創出



時間/経済のゆとり

- ・中学校全員給食
- ・小児医療費助成拡大(～18歳)
- ・横浜型**短時間勤めり**

グローバル人材

- ・横浜独自の
AIドリルの導入

学校環境整備

- ・体育館**空調整備**
- ・学校施設の**断熱化**

もっと子も親も
笑顔になるために

4 魅力あふれる 心地よいまち



図書館

- ・地域図書館
- ・取次拠点
- ・のげやま子ども図書館
- ・新図書館の整備

魅力、観光資源

- ・水際線
- ・都心部のみどり
- ・3動物園
- ・三溪園
- ・馬見所
- ・にぎわいづくり

受動喫煙対策

- ・分煙環境の整備
- ・路上喫煙禁止呼びかけ

ポテンシャルを
生かした
魅力づくり

5 世界に誇れる 都市づくり



都市の成長・発展

- ・土地利用誘導戦略
- ・都心部のまちづくり
- ・GREEN×EXPO 2027

グリーン社会

- ・循環型都市(6つのサー
キュラーリング)
- ・カーボンニュートラル

グローバル都市戦略

- ・アジア太平洋循環型都
市フォーラム(APCC-
Forum)の開催

未来と世界を
見据えた
活力ある都市へ

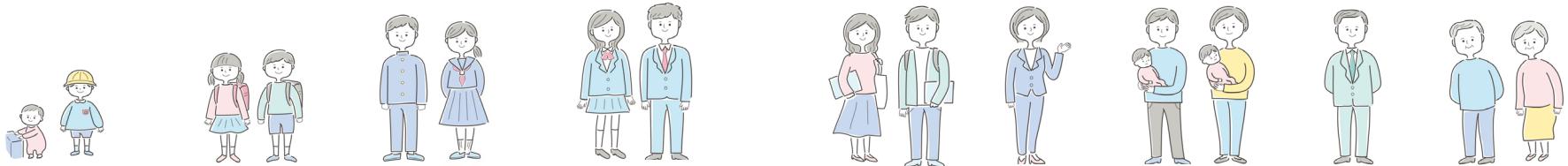
物価高騰対策

1



物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した 横浜市の物価高騰対策パッケージ

- ▶生活者支援に重点化(全市民の皆様へ物価高対策を展開)
- ▶国の経済対策とあわせ、市民の皆様全員にいきわたる、効果を実感できる取組を実施



0歳～
未就学児

小学生

中学生

高校生

令和8年4月1日時点で19歳以上の方
(平成19年4月1日までに生まれた方を対象)

【国】物価高対応子育て応援手当(2万円)

【本市】
給食費負担軽減

小学校
R8実質無償化
中学校
R8値上げなし

【本市】1人当たり5,000円の給付
(電子クーポン又は商品券)

※加えて、商店街プレミアム付商品券支援事業による生活者支援を実施

上記のほか、市の発注事業における物価高騰を加味した契約変更や指定管理者への物価及び賃金スライド制度による指定管理料への反映など、臨時交付金以外の財源や本市の一般財源も活用し、物価高対応に取り組んでいきます。

1 物価高騰対策

物価高騰対策

全ての世代への経済対策

新規

〈17,909百万円※
※7年度1月補正で計上



19歳以上の方を対象に、食料品のほか日用品の購入にも利用できる5,000円分の電子クーポン又は商品券を配付します。

国が実施する18歳までを対象とした「物価高対応子育て応援手当」と合わせて実施することで、本市にお住まいの全ての世代が経済対策の対象となります。

給食費負担軽減

拡充

〈3,013百万円※
※物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金充当額のみ記載



給食費の保護者負担軽減に向けて、給食食材費購入費に充当します。

小学校給食については、国の支援基準を超える部分に交付金を活用することで、8年度は実質無償とします。

中学校給食については、交付金の充当により、8年度も引き続き値上げはなしとします。

商店街プレミアム付商品券

拡充

〈375百万円※
※7年度1月補正で計上



物価高等に直面する市民の皆様を支援し、地域経済を活性化するため、商店街がプレミアム付の商品券を発行する経費を補助します。

(プレミアム率上限25%)

安心・安全な暮らし

2



2 安心・安全な暮らし

暮らしの中の「もしも」に備え、健康維持や日常の困りごとへも対応

防犯

- 「暗がり」の解消(防犯灯)
- 防犯カメラの設置拡充
- 宅配ボックスの設置支援



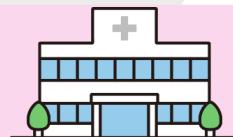
防災

- 地震防災戦略の着実な推進
- 次世代防災リーダーの育成
- 実効性のある避難所運営に向けて



日々の暮らしの
「安心」「安全」の実感へ

医療・福祉



- 総合的ながん対策
- 高齢者の安心を支える取組



交通



- 敬老バスと新たな地域公共交通の着実な推進
- 移動しやすいみちづくり

2 安心・安全な暮らし－防犯－

スマート防犯シティ横浜の実現に向けた取組

これまでの取組・成果

「よこはま安全・安心プラン」のもと、地域と行政が一体となって防犯環境を整備

- ・LED防犯灯設置
- ・防犯パトロール
- ・防犯啓発活動
- ・地域見守り活動
- ・地域防犯カメラ設置

令和3年の刑法犯認知件数は、平成16年(←過去最高)の6分の1まで減少

【令和6年】
人口1,000人当たりの刑法犯認知件数 **政令市最小**
～犯罪に遭いにくい安心なまち～

① 犯罪情勢・社会の変化

犯罪情勢の変化

- ・特殊詐欺・闇バイト等による凶悪事件の発生
- ・刑法犯認知件数の再増加(R4以降)

社会の変化

- ・地域の希薄化

→日常生活に犯罪が迫る中、地域において防犯活動を担う人材が減少

② 現在の市民意識

防犯上不安を感じる場所

夜間の道路（暗い道） 71.7%

強化すべきと思う取組

第1位 夜間屋外照明の設置

第2位 防犯カメラの設置

自宅で行っている防犯対策

インターホンで訪問者を確認してから対応 83.1%

→これまでの取組の充実や、日常生活における安心確保を求める声が増加

【出典】令和7年度 防犯意識に関するアンケート調査(市民局)

③ 令和8年度の展開

「横浜市防犯のまちづくり推進条例（仮称）」に基づくプランを策定し、体系的な防犯対策を推進

→8年度は防犯灯や防犯カメラの強化、対面受取に対する不安の解消等、犯罪の未然防止と体感治安の向上を図る。

2 安心・安全な暮らし－防犯－

防犯灯・防犯カメラの強化

「暗がり」ゾーンへの防犯灯設置

新規



〈81百万円〉

安心を実感できる環境の構築

拡充

〈77百万円〉



令和11年度までに「暗がり」の全解消を実現
するために、25m間隔以上を基準に防犯灯を設置することに加え、灯りが届いていない場所「暗がり」に対して、防犯灯（715灯）を設置し、夜間照度の上昇に取り組みます。

・モデル事業として、防犯灯約500灯をスマート防犯灯（IoT機能内蔵）に付け替え、見守りタグと連携し、位置情報を可視化します。子どもの見守り体制を強化するとともに、更なる防犯力向上につなげます。

・予想を上回る自治会町内会からの地域防犯カメラ設置申請に対応し、補助台数を240台に拡充します。（※令和7年度申請数243台）

2 安心・安全な暮らし－防犯－

宅配ボックス（よこはま安心ボックス）の設置支援

よこはま安心ボックス設置支援事業

新規



〈130百万円〉

ネット通販の普及に伴い、宅配需要が高まる中で、対面受け取り、個人情報の流出、盗難等のリスクが発生している状況を踏まえ、住居の形態やニーズに合わせた宅配ボックスの設置費用を支援（想定件数：6,700世帯）し、安心して荷物を受け取れる環境づくりを進めます。



対面受け取りのリスク

配達員を装ったなりすましや押し込み強盗などの犯罪に遭うリスクがあり、特に高齢者や一人暮らし世帯では被害の危険性が高い



個人情報流出のリスク

荷物のラベルに記載された情報が第三者に見られる可能性あり。配達完了写真に住所や家の特徴が写り込み、情報が拡散する恐れ。



盗難のリスク

玄関前や共用部に置かれた荷物は通行人に見えやすく、高額商品は特に狙われやすい。防犯カメラがない場所では犯人特定が困難。

安心して荷物を受け取れる生活へ

2 安心・安全な暮らし－防災－

地震防災戦略の推進

令和8年度の取組〈計126億円〉（参考：令和7年度82.4億円）

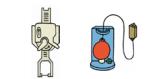
いつ起きるかわからない大地震から市民を守るために、引き続きスピード感をもって地震防災対策に取り組みます。

①市民や地域の“発災前からの備え”を強化 〈11億円〉

木造密集対策地域
(重点対策地域) での取組



1. 感震ブレーカー設置率の向上 (R11目標：80%)



設置予定数**4,000件** (R8進捗：37.8%)

2. 家具転倒防止器具の設置率の向上 (R11目標：80%)



設置予定数**1,500件** (R8進捗：58.8%)

3. 初期消火器具(スタンドパイプ等)の設置 (R11目標：100%)



設置予定数 **11件** (R8進捗：81.3%)

③本市初の広域防災拠点 〈5億円〉

備蓄倉庫や現地司令施設の整備

1. 方面別備蓄庫 (R11目標：完成)

R8：**基本設計**の実施

2. 現地司令施設 (R11目標：完成)

R8：**基本設計・実施設計**の実施



②誰もが安心して避難生活を送れる環境改善 〈90億円〉

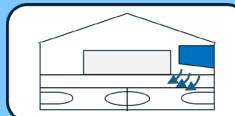
避難所環境の向上

1. 学校トイレの洋式化 (R11目標：100%)



工事予定数**66校** (R8進捗：92%)

2. 体育館空調整備 (R11目標：100%)



工事予定数**80校** (R8進捗：47%)

3. 備蓄品の充実配備 (R11目標：3食×3日分備蓄)



約30万食配備予定 (R8進捗：72%)

④災害に強いまちづくり 〈19億円〉

緊急輸送路の整備等災害に強いインフラ整備



緊急輸送路上の沿道がけ(民有地)の安全性確保 (R9目標：要対応4か所完了)

2箇所整備 (R8進捗：50%)

※①～④内の項目は、主な取組を記載しています。

2 安心・安全な暮らし－防災－

次世代防災リーダーの育成

次世代(中学生)に向けた防災教育 (若き防災マイスター育成)

新規

拡充

〈6百万円〉

新規

若き防災マイスター育成プログラム

より専門的な
学びの場



- ・より専門的な防災教育
- ・特別な体験
(例:消防本部庁舎特別視察)
- ・終了証授与

拡充



防災教育プログラム
(中学校)



実践・実生活へ



防災訓練/イベントへの参加

●防災教育プログラム

総合的な学習の時間等を活用し、各校が自由に選べる複数の防災プログラムを実施します。

●若き防災マイスター育成プログラム

意欲ある学生に対し、より専門的な防災の学びの場を提供します。

実効性のある避難所運営に向けて

避難者受入施設拡大に向けた検討

新規

〈5百万円〉

新たな受入施設の検討



地域防災拠点の現状



- ・受入可能な施設との調整
- ・災害時の運営体制の検討

各地域の実状等を踏まえた、災害時に、より効果的に機能する避難スキームの構築を検討します。

- ・地域防災拠点の受入シミュレーション
- ・地域防災拠点以外の避難施設での受入シミュレーション
- ・新たな受入施設の運営体制の検討

2 安心・安全な暮らし－医療・福祉－

総合的ながん対策

令和8年度横浜市のがん検診概要

20代	30代	40代	50代	60代	70代～
<p>横浜市独自： 無料クーポン (21-24歳)</p> <p>子宮頸がん検診</p>	<p>肺がん検診</p> <p>大腸がん検診</p>	<p>胃がん検診 年に1回</p> <p>大腸がん検診 年に1回</p>	<p>胃がん検診 2年に1回</p> <p>全国自治体初R7.1～</p>		<p>横浜市独自 65歳以上 がん検診 費用の無料化 政令市初 精密検査 費用の無料化</p> <p>新規 ・対象年齢を65歳以上に拡大します。 ・前立腺がんの精密検査も対象とします。</p>

新たながん対策の取組

新規 生成AIによるがん相談サービス「よこはまランタン」の活用促進

新規 遺伝性のがんに関する定期的な検査（サーベイランス）費用助成（全国初）

拡充 遺伝性のがんに関する検査（遺伝学的検査）等費用助成

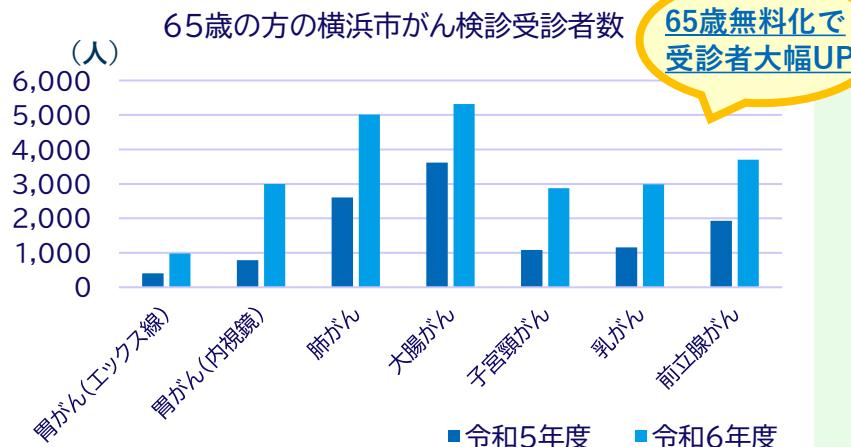
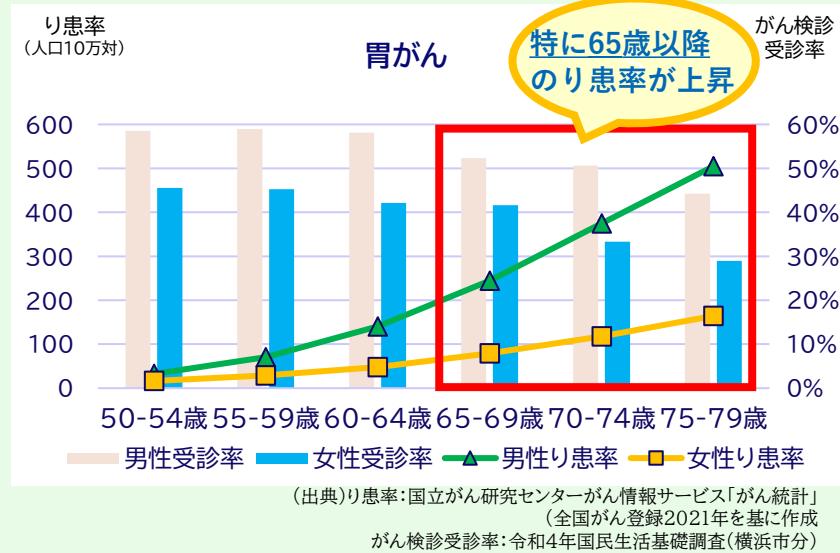
新規 肺がん検診二次読影へのAI導入検討



2 安心・安全な暮らし－医療・福祉－

総合的ながん対策

年齢階級別のがんり患率(全国)・がん検診受診率(市)



がん検診無料化・精密検査無料化の対象年齢拡大(65歳以上)

新規

〈がん検診事業全体予算額5,128百万円〉

がん検診 無料

横浜市
独自

精密検査無料化
は政令市初



早期発見・早期治療で安心を

がんのリスクが高まる年代の方々が定期的にがん検診を受診するきっかけにしていただくため、横浜市がん検診、及び精密検査(※1)の無料化の対象を65歳以上に拡大(※2)し、市民の皆様の早期発見・早期治療につなげます。

(※1) 横浜市がん検診(無料)を受診して、精密検査が必要となった場合の検査費用

(※2) 令和7年度無料化の対象年齢は
がん検診: 65歳及び70歳以上 / 精密検査: 70歳以上

2 安心・安全な暮らし－医療・福祉－

総合的ながん対策

生成AIによるがん相談サービス 「よこはまランタン」の活用促進

新規

〈10百万円〉



専門家監修による信頼性の高い情報に加え、横浜市の制度や支援情報を提供することでがん患者やご家族等が信頼性の高い情報を得ることができ、安心して療養できる環境づくりを目指します。

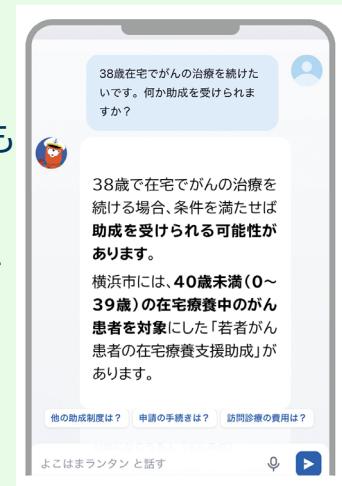
さらに医療・介護従事者による活用も進め、相談支援の質向上と現場での業務負担軽減に役立てていきます。

◆「よこはまランタン」とは

「ランタン」は一般財団法人在宅がん療養財団が開発・運営しているサービスであり、同財団と連携して横浜市の情報を加えたものです。

◆「よこはまランタン」の特徴

- ▶匿名・無料で利用できる
- ▶24時間 365日いつでも
- ▶医師などが監修した信頼できる情報を届け
- ▶市の制度や支援情報がすぐ見つかる



2 安心・安全な暮らし－医療・福祉－

高齢者の安心を支える取組

特別養護老人ホーム等を必要とされている方への支援

新規



〈66百万円〉

■特養平均待機期間

従来(R7見込)
7か月

期間短縮
実現へ

目標(R11)
4か月

特別養護老人ホーム等への入所を必要とされている方が早期に入所できるよう、新たにコーディネーターを配置し、入所申込者に適した施設の提案等を通じた入所支援を行います。

社会参加と介護予防の推進

拡充

〈1,026百万円〉

フレイル予防4つの柱



高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けられるよう、社会参加を通じた介護予防や、健診、医療、介護データ等を活用したフレイル※対策を進めます。

令和8年度は、高齢者一人ひとりの健康課題に着目した高齢者フレイル対策の実施を市内10区での実施から市内全域の18区に広げます。

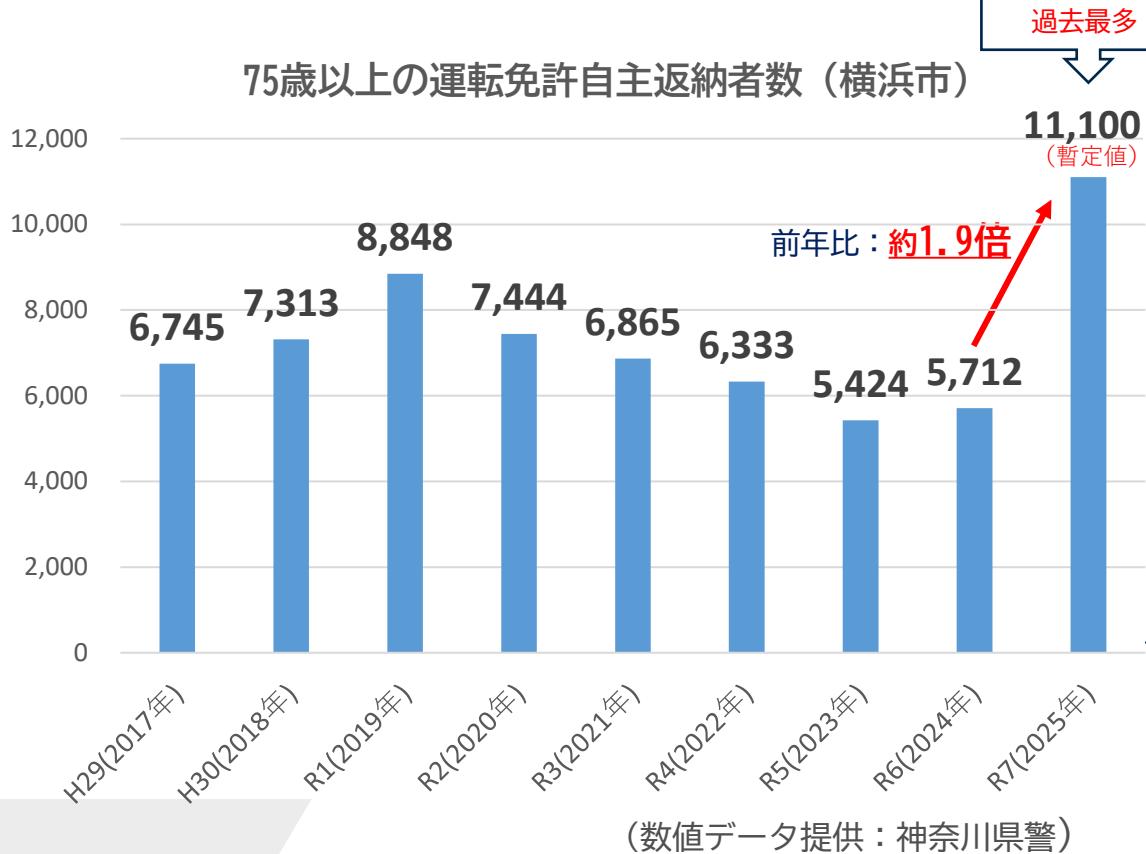
※フレイル：高齢期に体力や気力、認知機能など、からだとこころの機能（はたらき）が低下し、将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態

2 安心・安全な暮らし－交通－

75歳以上運転免許自主返納者への敬老バス無料交付の効果

〈敬老バス事業全体予算額：14,598百万円〉

高齢者の皆さまが免許証返納後も安心して外出できるよう、令和7年4月1日以降に75歳以上で運転免許証を自主返納された方から申請のあった場合、「敬老特別乗車証（敬老バス）」を3年間無料で交付する制度を開始しました。



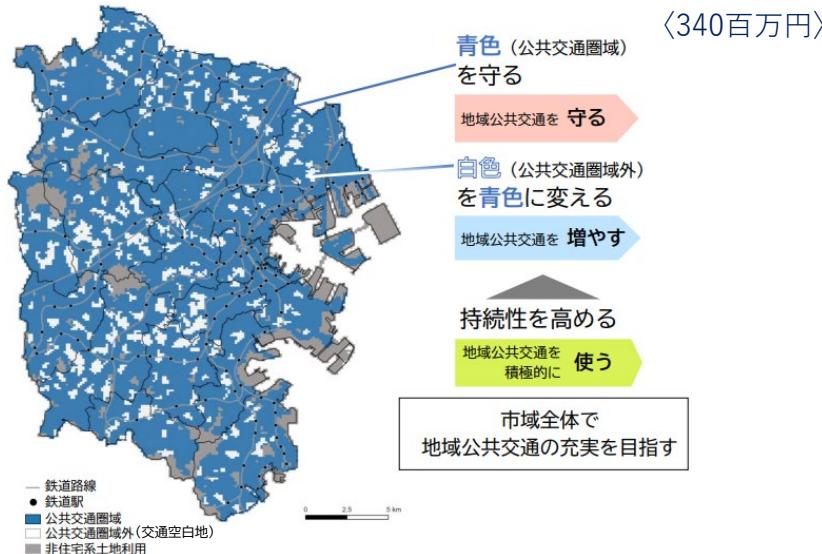
制度開始とともに、市内で運転免許を自主返納した方は前年より約1.9倍に増え、そのうち8,800の方が敬老バスを申請しています。引き続き運転免許自主返納に伴う無料交付を実施します。

2 安心・安全な暮らし－交通－

地域公共交通の導入推進

新たな地域公共交通導入 着実に進行中

継続



交通空白地の半減に向けて、新たな地域公共交通の導入に向けた取組をさらに推進します。

4年間で約50地区の運行に向けて、令和8年度は累計31地区以上の運行を目指すとともに、新たに11地区でプッシュ型の支援を行い、地域や運行事業者の皆さんとともに導入を進めます。

各地区で実証・本格運行が始まっています！

おでかけ号（南区永田地区）

令和7年8月 実証運行開始



とみおかーと（金沢区富岡西地区）

令和7年12月 本格運行開始

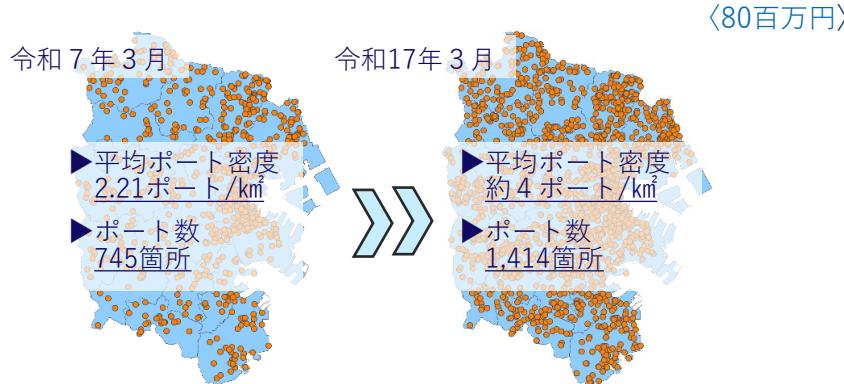


2 安心・安全な暮らし－交通－

移動しやすいみちづくり

シェアサイクルの推進と走行環境整備

新規 拡充



シェアサイクルポートの設置を推進します



シェアサイクルの移動データ等を活用した自転車走行環境整備を推進します

子乗せ電動自転車レンタルの拡充

拡充

〈5百万円〉



民間企業と連携した子乗せ電動自転車レンタル事業の社会実験を拡大するため、市営自転車駐車場などの公有地に専用駐車区画を整備します。

(令和8年度設置目標：10箇所)

こどもと向き合うゆとりの創出

3



3 こどもと向き合うゆとりの創出



これまでの主な取組【R4~7】

【More Smile Package】

- こどもの医療費無償化(～中3)
- 出産費用の独自助成(政令市初)
- 小学生の夏休み等の預かりで昼食提供
- おむつ等の持参をなくす
「にもつ軽がる保育園」実施
- 中学校全員給食実施に向けた推進
- 総合子育て応援アプリ「パマトコ」
リリース
- 「すぐーる」の全市立学校での利用開始



未来への 投資

もっと子も親も
笑顔になるために
さらにプラス



令和8年度予算主な取組

- 時間的ゆとりの創出のために
 - ・**中学校全員給食**の実施
 - ・**横浜型短時間預かり**の実施
- 経済的ゆとりの創出のために
 - ・**小児医療費助成拡大(～18歳)**
 - ・子育て世代の**住まいへの支援**の実施
- グローバル人材の育成
 - ・横浜独自の**AIドリル**の導入
- 快適な学校環境整備・体験機会創出
 - ・**プレイパーク**の拡充
 - ・学校施設の**断熱化、体育館空調整備**



これまでのMore Smile Packageを土台に、

さらにこどもに向き合うための**ゆとりの創出**に力を入れて取り組みます。

3 こどもと向き合うゆとりの創出

時間的ゆとりの創出のために

中学校全員給食の実施

拡充

〈9,183百万円〉

令和8年4月 いよいよ全員給食実施！



令和8年4月より、市内中学校において、
全員給食がスタートします。食缶による汁物提供により、カレーやシチューなど、今まで以上に温かく提供できるほか、生徒とともにより一層食べやすい献立づくりを目指します。

また、特定原材料9品目に対応したアレルギー代替食の提供を開始します。

生徒とともにつくる献立

中学校給食は、生徒の意見を取り入れ、シェフや生産者の皆様などと連携し、より魅力ある給食となるよう常に進化を続けます。

自分たちが献立をつくる



1万人が参加する
メニュークール

自分たちの思いが形になる



生徒の記憶に残る横浜らしい献立の開発

様々なパートナーとともに実現



一般食イメージ



アレルギー代替食イメージ

3 こどもと向き合うゆとりの創出

時間的ゆとりの創出のために

親も子もあんしん😊 よこはまの一時預かり

横浜市ではこれまで、市内約500か所の保育所や41か所の一時預かり専用施設などで、お子さんを一時的に預かるサービスを提供してきました。「急な用事」や「困ったとき」に安心してご利用いただけるよう、一時預かりの体制をさらに充実させていきます。

モデル実施の結果

市庁舎での土日祝預かり事業



一日あたり平均利用者数 (定員: 15人)
利用者数: 171人 (延べ423人)

一時預かり施設の増に加え、

土日祝日に
預けたい

市役所内での土曜・日曜・祝日の一時預かりの
モデル実施を通年化
区役所での土曜・日曜・祝日の一時預かりのモデル実施

利用しやすい
場所で
預けたい

横浜型短時間認証制度による身近な場所での一時預かり
の拡充
・商業・集客施設やイベントでの預かりの拡充
・地区センターでこどもが楽しめる
プログラム付き預かりの開催増

より予約
しやすく

利用手続きの簡便化。事前面談のオンライン化の推進



横浜の一時預かりをもっと充実

3 こどもと向き合うゆとりの創出

時間的ゆとりの創出のために

もっとわかりやすい・利用しやすい一時預かりを目指して

「安心・安全」で「使いやすい」、そして「こどもも楽しく過ごせる」預かりに取り組みます。時間や場所を問わず、多様なニーズに対応できるサービスを展開します。

商業・集客施設等での短時間預かり【横浜型】

拡充

〈80百万円〉

商業・集客施設等における短時間預かりモデル事業として、市内2か所で実施します。

令和8年度は平日の利用増を目的とした更なる子育て支援メニューを実施します。



市庁舎・区庁舎内での土日祝日預かり

新規

〈71百万円〉

- 利用者から好評いただいている市庁舎内の土日祝日の一時預かりモデル事業について、令和8年度は市庁舎内における預かりを通年で実施します。
- 区庁舎2か所においても土日祝日の一時預かりをモデル実施します。



イベント時の短時間預かり実施補助【横浜型】

拡充

〈28百万円〉

イベント等実施時に臨時で短時間預かりをする際の運営費補助を通年で80回分実施することで、親子それぞれの時間を楽しめる空間を創出します。



利用手続きの簡便化 〈一時保育、一時預かり専用施設〉

新規

〈88百万円〉

条件を満たした場合の事前面談省略や、期間内利用予約のオンライン対応率を100%とすることで、利用までの期間の短縮を図るとともに、市民の預けやすさの利便性向上を図ります。



3 こどもと向き合うゆとりの創出

経済的ゆとりの創出のために

小児医療費助成の拡大

0歳～中学3年生

約 410,000人



～18歳

約 90,000人

0歳～中学3年生までの医療費無償化に加え、対象年齢を18歳まで引き上げることで
全ての子どもの医療費をカバー！

期待される効果

医療費に躊躇することなく、
安心して子どもが受診できる環境を実現

〈17,640百万円〉

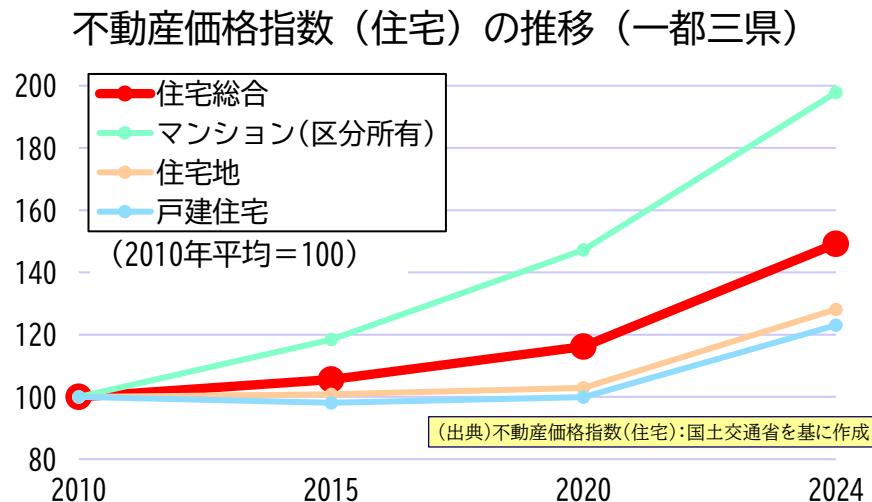


令和5年度に実施した中学3年生までの医療費無償化の対象を18歳まで拡大し、安心して医療機関を受診できる環境を整えます。

(令和8年6月予定)

子育て世代の住まいへの支援パッケージ

子育て世代の負担軽減

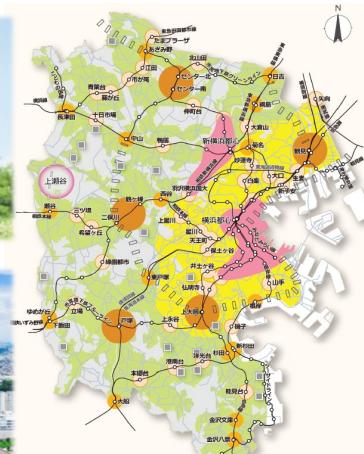


住宅・土地価格の高騰による
家賃などの住宅費負担の軽減

子育て世代向け
家賃補助の拡充

子育て世代の
空家購入補助

子育てしやすい住環境モデルの創出



横浜の郊外部の魅力を更に高める
子育てしやすい住環境モデルの創出

子育て応援
賃貸住宅整備

公有地グリーン
子育て街区整備

子育て世代の住まいへの支援の実施（8年度は計150世帯からスタート）

3 こどもと向き合うゆとりの創出

子育て世代の住まいへの支援パッケージ（子育て世代の負担軽減）

子育て世代向け家賃補助の拡充

新規

〈10百万円〉



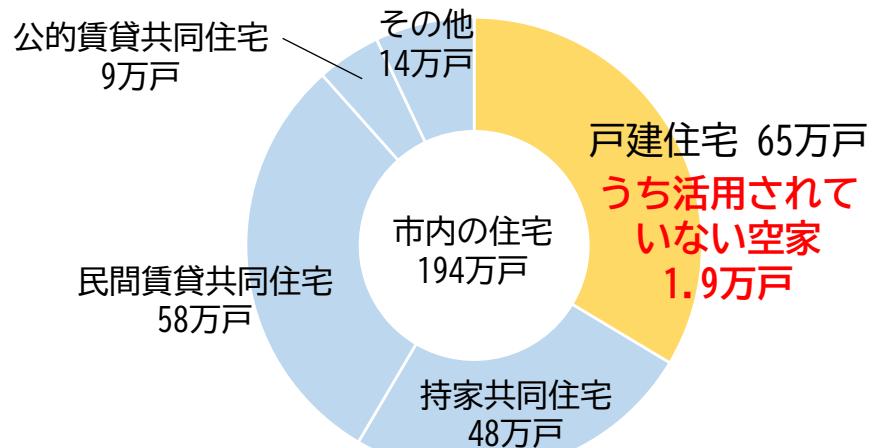
子育て世代	想定される世帯年収		補助額・補助期間
	2人世帯	4人世帯	
本市独自 (拡充)	~584万円	~677万円	月額最大4万円補助 子育て世帯 最大6年間 新婚世帯 最大3年間
国制度 (既存)	~436万円	~531万円	

家賃負担が大きい子育て世代の負担を軽減するため、家賃補助付き住宅の対象を、子育て世代は中堅所得層まで拡充します。

子育て世代の空家購入補助

新規

〈114百万円〉



子育て世代向けの空家購入補助制度を創設します。

子育て世代の住宅取得促進や、住宅ストックの有効活用による郊外部等の循環型まちづくりを進めるため、活用されていない戸建空家を子育て世代が取得する際に、最大200万円を補助します。

3 こどもと向き合うゆとりの創出

子育て世代の住まいへの支援パッケージ（子育てしやすい住環境モデルの創出）

子育て応援賃貸住宅整備

新規

〈34百万円〉



共働き世帯の子育て負担を軽減するため、子育て向け設備やコミュニティ形成支援等の機能が整った、子育てしやすい賃貸住宅を創出します。

子育てに寄与する共用部や設備、機能を設けた民間賃貸住宅を新築・改修する場合に、整備費用を最大500万円補助します。

（想定補助件数：6 施設）

公有地グリーン子育て街区整備

新規

〈15百万円〉



未利用公有地を活用し、環境との共生や子育て世代に優しい住宅地など、これからの横浜市の郊外住宅地のモデルを公民連携で創出します。

令和8年度は、周辺へ波及する大規模な街区から小規模な街区まで、さまざまなタイプで、まちづくりの検討を開始します。

（想定地区数：3 地区）

3 こどもと向き合うゆとりの創出

精神的ゆとりの創出のために

ベビーカーフレンドリーYOKOHAMA

新規



〈20百万円〉

子育て応援アプリ「パマトコ」

拡充

〈398百万円〉



横浜市全体でベビーカー利用者に優しい社会的機運を醸成することで、子育て世代が外出・移動しやすい環境を整えていきます。

令和8年度は、市営地下鉄車内の「車いす・ベビーカー優先スペース」の一部にラッピングを実施します。また、野毛山地区など、市内における移動時の負担軽減策も進めています。

令和6年度にリリースした子育てアプリでは、手続きのオンライン化、学齢期コンテンツの追加など様々な拡充を行ってきました。

令和8年度は、さらなる利便性の向上を目指し、アプリ内におけるポイント制の導入など、利用者の声を反映したアプリの改修や対象となる手続きの拡充に取り組みます。

3 こどもと向き合うゆとりの創出

グローバル人材の育成

成長段階に応じたグローバル人材につながる取組の展開

乳幼児期のきっかけづくりから、学齢期における確かな学力の向上につながる取組まで、英語等によるコミュニケーション力、地球規模の課題に係る多様な人との協働、異文化へのチャレンジ機会を提供し、グローバル時代を生き抜く人材を育成します。



3 こどもと向き合うゆとりの創出

グローバル人材の育成

個別最適な学びのためのAIドリルの活用

新規

〈876百万円〉



25万人の教育ビッグデータを活用し、横浜独自のAIドリルを、4月から全校に導入します。

一人ひとりに最適な問題の自動出題や、学習動画コンテンツのレコメンドにより、個別最適な学びを実現します。

横浜独自の要素

〈データ分析〉

- ・横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領に対応
- ・25万人ビッグデータと個人学習データから一人ひとりの学習状況を抽出（本市戦略や教科特性に合わせた機能開発）
- ・学習状況に応じた学習動画コンテンツをレコメンド【算数・数学】
- ・横浜5ラウンド制に対応した英語4技能教材の開発
- ・学習到達度に合わせたAI英会話機能
- ・CEFR-A1相当の英語力を推定・GREEN×EXPO 2027とタイアップした英語長文問題

グローバル社会で活躍できる人材を育むためのメタバース活用

拡充

〈32百万円〉



空間的・時間的制約を超え、1人1台端末からアバターを介した交流が可能となるメタバースを活用し、海外の学校と互いの文化を紹介するなどの国際交流を実施します。

令和8年度は、国際交流を行う学校を3校から10校に拡大します。

3 こどもと向き合うゆとりの創出

グローバル人材の育成

英語指導助手(AET)の増員
による小学校英語教育の推進

拡充

〈1,223百万円〉



全小学校で毎日、英語話者と授業ができる環境のさらなる充実を図るために、英語指導助手(AET)を240人配置し、リアルとオンラインを組み合わせることで英語でのコミュニケーション機会を増やします。

高校生の留学支援

新規

〈264百万円〉



- ・異文化に飛び込む意欲を育成するために、新たに市立高校を対象とした長期留学プログラムを実施し、1期生20人をアメリカ・カナダに派遣します。加えて、10人を対象に短期留学プログラムを企画します。
- ・市内在住・在学高校生を対象に長期短期留学費用を、100名を対象に支援します。

乳幼児期からの英語体験

拡充

〈9百万円〉



園児から好評のネイティブルベルの講師によるプレイフルラーニング（遊びを通して英語や文化に触れる活動）について、乳幼児期からの英語体験の充実を目指し、英語に触れられるよう、市立保育所15園から全園（56園）実施に拡充します。

3 こどもと向き合うゆとりの創出

快適な学校環境の整備・体験機会の創出

プレイパークの拡充等による
子どもの多様な外遊び機会の確保

拡充



〈73百万円〉

快適な学校環境の整備
(断熱化・体育館空調・トイレ洋式化)

新規

拡充

〈8,201百万円〉



都市部では珍しい多様な自然・地形を生かした子どもの屋外の自由な遊び場である「プレイパーク」の確保に加え、多くの子どもにこれまで以上に子どもに本物の遊び体験を提供できるよう、新たに出張プレイパークの実施や、子どもログハウスや公園など関連する団体等との連携・支援を実施し、市民に身近で自然豊かな場所での子どもの体験機会創出の場を34箇所から45箇所に増やします。

- ・暑熱環境等から児童生徒を守り、より良い学習環境を確保するため、最上階教室の天井や窓の断熱化（断熱材の設置、遮熱カーテンの導入等）を市立小中学校150校に実施し、令和11年度までに全校に対応することを目指します。
- ・地域防災拠点としての避難所環境及び授業環境の改善を図るため、体育館空調の整備やトイレの洋式化をさらに推進します。

3 こどもと向き合うゆとりの創出【令和4年度～】

妊娠・出産期	乳幼児期	学齢期（小学生）	学齢期（中学生）	～18歳（高校生）
～時間的ゆとりの創出～				
   				
～経済的ゆとりの創出～				
 子育て応援アプリ「パマトコ」の機能強化	 にもつ軽がる保育園、保育園における夕食支援	 中学校全員給食の実施		
～精神的ゆとりの創出～				
 出産費用の助成	 小児医療費助成の拡大			
 子育て世代向け家賃補助の拡充・子育て世代の空家購入補助				
グローバル人材育成の推進				
 乳幼児期からの英語体験（プレイフルラーニング）	 英語指導助手（AET）による英語教育の推進（小学校AETの増員）	 高校生の留学支援		
 快適な学校環境の整備・体験機会の創出	 個別最適な学びのためのAIドリルの活用			
	 グローバル社会で活躍できる人材を育むためのメタバース活用			
	 プレイパークの拡充等によるこどもの多様な外遊び機会の確保			
	 長期休業期間中の放課後キッズクラブ及び放課後児童クラブでの昼食提供事業			
	  快適な学校環境の整備（断熱化、体育館空調、トイレの洋式化）			

魅力あふれる心地よいまち

4



4 魅力あふれる心地よいまち

図書館の魅力向上



- 地域図書館のリノベーション・再整備
- のげやま子ども図書館の整備
- 図書取次拠点の増設
- 新図書館の整備

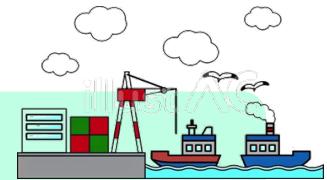


受動喫煙対策

- 路上等での喫煙禁止に向けた呼びかけ



魅力あふれる 心地よいまち



横浜の魅力、観光資源

- 水際線の魅力向上
- 都心部のみどり創出
- 3動物園の魅力向上
- 三渓園の価値・魅力の磨き上げ
- 旧根岸競馬場一等馬見所の保存・活用
- 戦略的なぎわいづくり



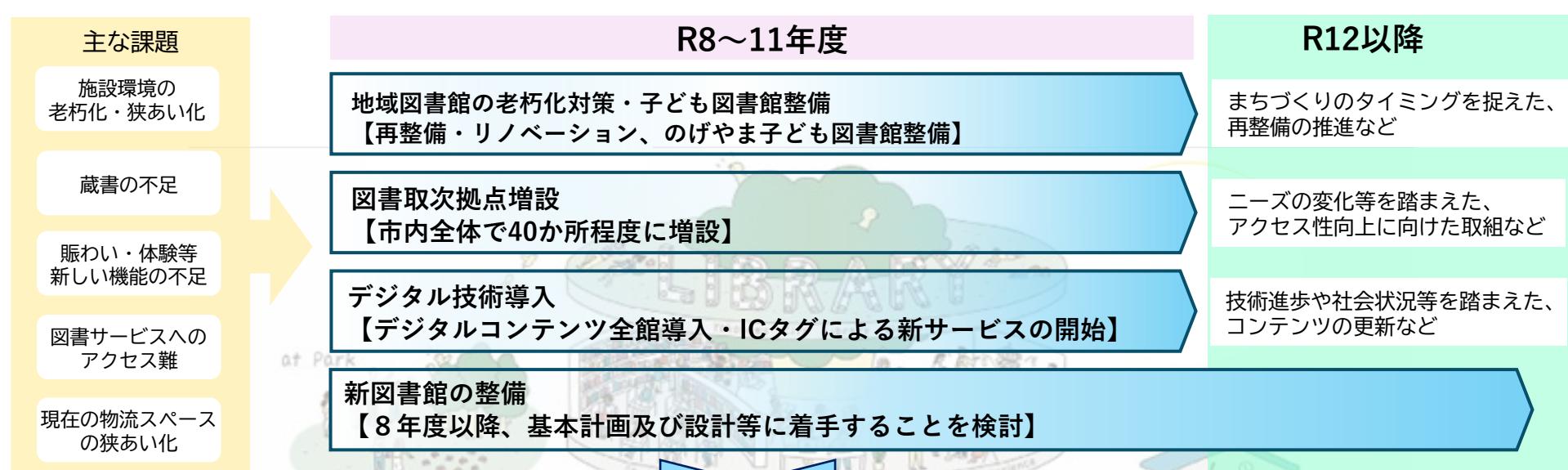
- 受動喫煙防止のマインドづくり
- 分煙環境の整備

4 魅力あふれる心地よいまち

市立図書館の抱える課題と今後の方向性

市立図書館は主に、①施設環境の老朽化・狭隘化、②蔵書の不足、③賑わい・体験等新しい機能の不足、④図書サービスへのアクセス難、⑤現在の物流スペースの狭隘化、という課題を抱えています。

これらの課題に早期に対応し**図書サービスの充実とアクセス性の向上**を目指し、取組を進めています。



時代の変化やニーズの多様化、現在の市立図書館が抱える課題に対処するため、市立図書館の機能分担により、より市民に充実したサービスを提供していきます。

中央図書館

知の収集・探求の拠点

地域図書館

地域に根差した情報拠点

新図書館

創造・発信等に対応した新たな知の拠点

4 魅力あふれる心地よいまち

図書館の魅力向上

地域図書館の老朽化対策

拡充

〈473百万円〉



- ・地域図書館について、居心地向上をめざしてリノベーションを実施します。
(設計・施工3館、設計5館)
- ・最も古い港北図書館や、鶴見図書館の複合施設への再整備に向けて検討を進めます。

のげやま子ども図書館の整備

拡充

〈1,404百万円〉



中央図書館の1階フロアに整備する「のげやま子ども図書館」について、先行オープンした「おやこフロア」に続き、令和9年春開所を目指し、「こどもフロア」の整備を進めます。

4 魅力あふれる心地よいまち

図書館の魅力向上

図書取次拠点の増設

新規

〈310百万円〉



「Book Lounge Kable」（平和不動産株式会社）

市域全体で取次拠点の増設を進め、令和11年度までに40か所程度でサービス提供を目指し、令和9年春に新たに10か所開所します。このうち特に、ふらっと立ち寄れる読書環境を提供するブックス＆ラウンジ（仮称）を、青葉台駅周辺・上大岡駅周辺で開所します。

新図書館の整備

新規

〈84百万円〉



「教育都市・横浜」の知の拠点として、新横浜駅北口に、図書を含めた多様なメディアに対応する新しい図書館を整備します。

令和8年度は、「整備基本計画」の検討等を進めます。

4 魅力あふれる心地よいまち

屋外におけるさらなる受動喫煙対策

市民の皆様の意識

ヨコハマeアンケート 喫煙に関する調査 (R7.2)

『たばこに関して気になることはありますか』

特に気にしない	3%
吸い殻のポイ捨て	88%
たばこの煙やにおい	84%
受動喫煙による健康影響	69%
歩きたばこの火によるやけど	59%

『この1か月間、受動喫煙の機会はありましたか。
ある場合はどのような場所・状況でしたか。』

機会はなかった	22%
歩きたばこ	55%
路上喫煙	47%
屋外の喫煙所の周囲	34%
飲食店	15%
自宅(近隣住民等の喫煙)	13%
公園	13%

(10%未満の回答を除く)

令和7年度の取組



令和8年度の取組

ポイ捨て防止条例の改正により、
市内全域で屋外での公共の場所(路上等)での喫煙禁止
とする方向で検討を進めており、
主に次のことに取り組みます。

- 路上等での喫煙禁止に向けた呼びかけ
- 受動喫煙防止のマインドづくり
- 分煙環境の整備

令和7年度に実施した「公園全面禁煙化」からさらに一步を進め、
市民の皆様のご意見、アンケート調査の結果を踏まえ、
望まない受動喫煙のない暮らしの実現に向けて
取組を加速させていきます。

4 魅力あふれる心地よいまち

屋外におけるさらなる受動喫煙対策

路上等での喫煙禁止に向けた呼びかけ

拡充

〈230百万円〉

屋外の公共の場所（路上等）での喫煙禁止についての標識・路面標示等を整備するとともに、喫煙禁止地区や駅周辺・公園等を中心にパトロールを実施するなど、屋外での喫煙に対して注意喚起を行います。



喫煙禁止地区等指導員による指導の様子



喫煙禁止地区内に設置している路面標示

受動喫煙防止のマインドづくり

新規

拡充

〈25百万円〉

「受動喫煙がないきれいなまち」に向け、関係団体と連携した広報やSNS、公共交通サイネージ等を活用した効果的な発信を行います。



若い世代を対象とした喫煙防止啓発動画より抜粋

分煙環境の整備

〈168百万円〉

開放型の公設喫煙所について、密閉型への転換を行うことや、重点地区における民間喫煙所の整備補助を行うなど、分煙環境を整えます。



他都市での密閉型喫煙所の導入事例

4 魅力あふれる心地よいまち

「世界に誇れる水際線」の魅力向上



本市が持つ観光資源である水際線の魅力を磨き上げ、
都心臨海部の回遊性のさらなる向上へ

※バース画像やサインについては、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

画像 ©2025 Google、地図データ ©2025

4 魅力あふれる心地よいまち

水際線の魅力向上

滞在場所と歩行者動線の整備

新規

〈496百万円〉



臨港パークを中心に、休憩施設等の整備を行い、
港の景色を楽しみながら人々が集まり憩える場所
を創出していきます。併せて、連続性のある舗装の整備を行い、ウォーカブルな空間を形成していきます。

公園と道路の一体感の創出

拡充

〈380百万円〉



山下公園では、公園と道路の一体感のある空間の整備を進め、人々の行き来を増やし、さらなるにぎわいを生み出していくます。休憩施設等の設計を行い、多様な居場所づくりを進めていきます。

4 魅力あふれる心地よいまち

水際線の魅力向上

水際線エリア全体のつながりの強化

新規

拡充

〈632百万円〉



横浜ならではの夜景の魅力を高めていくため、臨港パークや山下公園などで、海に映る光や特別な光の演出を可能とする照明の設置を行います。

あわせて、水際線エリア全体の回遊性を向上させるため、臨港パークから山下公園に至る約5kmの水際線を楽しみながら移動できるルートや、水際線からまちへ誘う結節点等に案内サインの設置を行います。

4 魅力あふれる心地よいまち

もっと自然を身边に

都心部のみどり創出

新規

〈23百万円〉



都心臨海部において、市民や来街者が実感できる
「象徴的なみどり空間」を創出します。3か所の
創出を目指し、基本計画の策定を行います。

3 動物園の魅力向上

拡充

〈611百万円〉



横浜の3つの動物園について、それぞれの特色を生かした新たな魅力向上の取組を進める「3つのZOOみらいプロジェクト」を推進します。

こどもを中心に、多様な体験や学びの場を創出するとともに、横浜の都市としての魅力やブランド力の向上につなげていきます。

4 魅力あふれる心地よいまち

さらなる魅力向上の取組

三溪園の価値・魅力の磨き上げ 新規

〈219百万円〉



- ・新たな誘客につなげるライトアップ
 - ・日本文化を体験できるコンテンツの充実
 - ・鶴翔閣（歴史的風致形成建造物）の保全支援
- 等に取り組み、三溪園の価値や魅力を生かして、観光資源として磨き上げ、来園者数の増を目指します。

（令和6年度来園者：約30万人）

旧根岸競馬場一等馬見所の保存・活用 拡充

〈200百万円〉



現存する日本最古の競馬場建築である「旧根岸競馬場一等馬見所」について、耐震補強設計を行いながら、根岸森林公園と一体的な活用策を検討し、エリアの魅力を高めるまちづくりにつなげます。

戦略的なにぎわいづくり 拡充

〈308百万円〉



都心臨海部を中心に、民間と連携した大規模集客イベント等の実施や公共空間等を活用した戦略的な回遊性向上・宿泊促進策により、にぎわいを創出し、市内経済を活性化します。

花火やモーニングコンテンツの充実など、夜まで楽しめ、朝から楽しめる横浜を創ります。

世界に誇れる都市づくり

5



5 世界に誇れる都市づくり

持続的に成長・発展する都市

【未来を創るまちづくり】

- 土地利用誘導戦略の策定
- 都心部のまちづくり
- 山下ふ頭再開発の取組



【GREEN×EXPO 2027】

- 横浜市出展に向けた取組
- 市民参加 ● 来場喚起

グローバル都市戦略の推進

【都市ブランディングの強化】

- 海外メディアへの情報発信強化、グローバルウェブサイト拡充



中長期的な視点に立った都市づくりを進めるとともに、
魅力を国内外に積極的に発信し、世界に誇れる横浜を目指します。

サステナブルなグリーン社会の実現



【サーキュラーリングの推進】

- 6つの分野でのサーキュラーエコノミーの推進
- たべる

つなぐ

つくる

くらす

とりくむ

みえる

【カーボンニュートラルの推進】

- 太陽光発電設備等の導入支援
- 公共施設LED化の推進
- 多様な主体と連携した暑熱対策

未来と世界を
見据えた
活力ある都市へ



【アジアを代表する循環型都市としての地位向上】

- アジア太平洋循環型都市フォーラム(APCC-Forum)の開催
- APUF-9の横浜開催に向けた広報・プロモーション

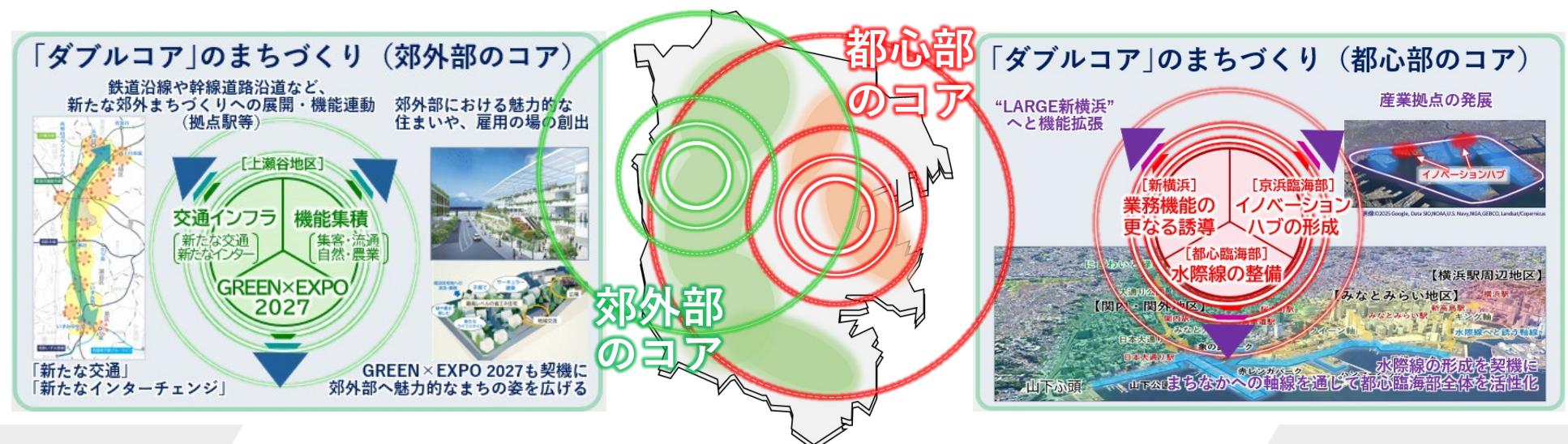
未来を創るまちづくり

◆規制見直しを通じた機能誘導

地域毎の特性に応じた、人や企業を惹きつけ活力ある魅力的な市街地を形成するため、時代の変化や社会ニーズに合わせた**全市的な土地利用規制の見直し**を進めます。

◆ダブルコアのまちづくり

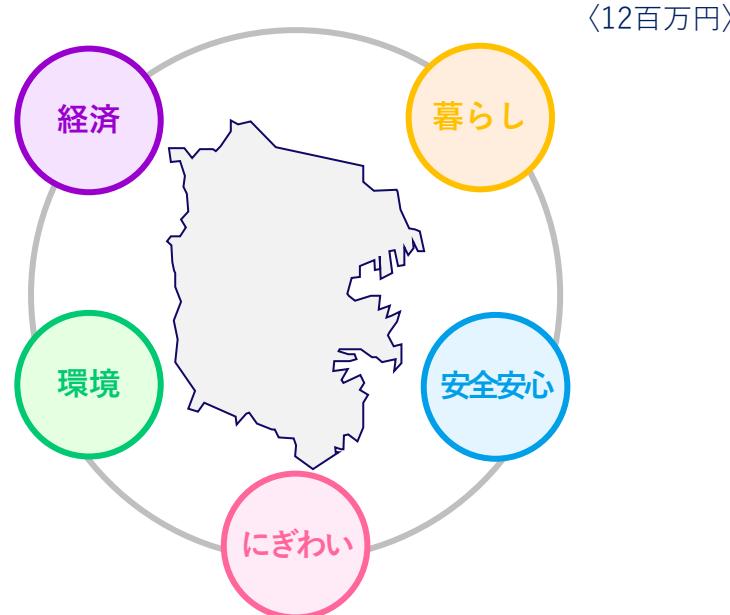
これまで進めてきた、都心部をコアとする都市の骨格形成をさらに発展させ、**都心部と郊外部、2つのコアの形成**により市域全体を面的に強化することで、都市の多様性と強靭性を高め、人口減少局面においても**持続的に成長・発展する都市**を目指します。



未来を創るまちづくり

土地利用誘導戦略の策定

拡充



都市計画マスタープランで目指す「未来をひらく次世代に誇れる都市づくり」を強力に推進するため、時代の変化へしなやかに対応しながら意欲的な都市づくりへの投資を後押しし、横浜の持続的な成長・発展を実現させるための土地利用規制の見直し策などをまとめた土地利用誘導戦略を策定します。

土地利用規制の見直しイメージ

都心部のさらなる機能強化に向けた規制見直し

都心部

都心部（横浜都心・新横浜都心）のポテンシャルを更に伸ばし、業務や商業といった都市機能のさらなる集積を誘導していくため、高さや容積率の見直しを進めます。



郊外部

主要駅周辺への居住誘導に向けた規制見直し

様々な世代を呼び込み、便利で暮らしやすいまちの実現に向けて主要駅周辺に居住機能や生活利便施設を誘導していくため、住宅や生活利便施設の容積率のほか、高さや用途地域の見直しを進めます。

未来を創るまちづくり

都心部におけるまちづくりの推進

拓充

新横浜駅周辺

都市機能のさらなる集積に向け、まちづくり方針の策定及び土地利用誘導策を検討するとともに、駅北口においては、新図書館の構想を踏まえたまちづくりを検討します。

横浜駅周辺

横浜都心にふさわしい都市機能の更新・更なる集積を進め、土地の高度利用を図るため、**規制緩和等の開発促進策を検討します。**

みなとみらい

まちの概成を契機として、次の時代を見据えたまちづくりの目標や取組等をまとめた、**将来ビジョンを策定**します。

閑内・閑外

関内駅前周辺のまちづくりによる にぎわいを周辺地域へも広げ、回遊性を高めていくため、新たな歩行者デッキの工事着手等を行います。

山下ふ頭再開発の新たな事業計画の策定

拓充

〈120百万円〉



令和7年6月にとりまとめた「答申を踏まえた基本的な方向性」に係る市民意見募集や市民検討会、サウンディング調査等の取組を踏まえ作成する事業計画案に対して、改めて市民の皆様のご意見を伺う機会を設け、新たな事業計画を策定していきます。

GREEN×EXPO 2027

いよいよ **8年度に開幕**を迎えるGREEN×EXPO 2027 は「循環型社会」「脱炭素」「生物多様性の回復」という地球規模の課題の解決に向けて、自然を活用した解決策：Nature-Based Solutionによるアクションを世界へ波及させていく場とします。

地球に優しい暮らしを共有する場となる**横浜市出展**や、「市民と共に創っていくEXPO」に向けた**市民参加**についての取組等を進めます。

地球と。咲きに行こう。



©Expo 2027

GREEN
×
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN

GREEN × EXPO 2027
公式マスコットキャラクター
トゥンクトゥンク

開催期間 2027年3月19日～9月26日



提供：2027年国際園芸博覧会協会

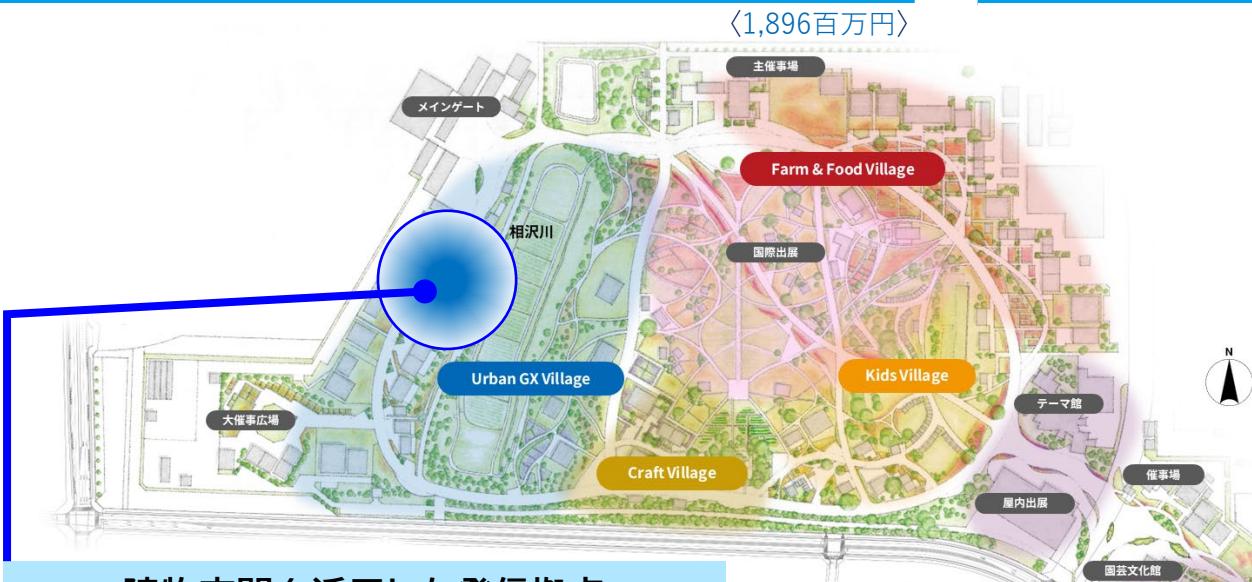
次の万博
は横浜！

5 世界に誇れる都市づくり

GREEN×EXPO 2027 横浜市出展に向けた取組

建物空間を活用した発信拠点

新規



建物空間を活用した発信拠点

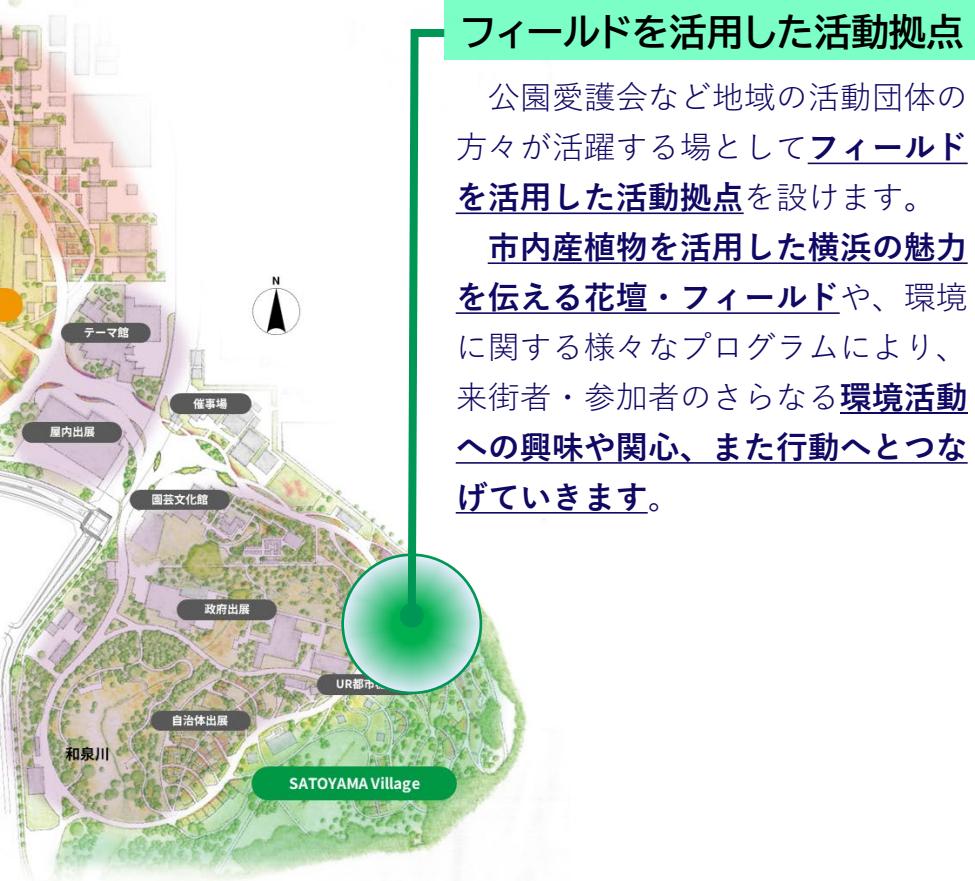
地球に優しい暮らしや身近な環境との関わりを体感いただくため、グリーン社会を実現する最新技術と出会える場であるUrban GX Villageに建物空間を活用した発信拠点を設けます。

環境に優しいこれからのライフスタイルの体験や、先進技術による未来のまち・暮らしを楽しみながら体感できる空間を市民・企業の皆様の力を集結し、共に創り上げます。

フィールドを活用した活動拠点

新規

〈160百万円〉



フィールドを活用した活動拠点

公園愛護会など地域の活動団体の方々が活躍する場としてフィールドを活用した活動拠点を設けます。

市内産植物を活用した横浜の魅力を伝える花壇・フィールドや、環境に関する様々なプログラムにより、来街者・参加者のさらなる環境活動への興味や関心、また行動へつなげていきます。

5 世界に誇れる都市づくり

GREEN×EXPO 2027 市民参加・来場喚起に向けた取組

市民参加の取組

拡充

〈1,765百万円〉



来場喚起に向けた取組

拡充

〈800百万円〉



- ・GREEN×EXPO 2027を共に盛り上げるボランティアの運営や市民参加（共創）プログラムなど開催に向けた準備を協働してすすめます。
- ・来場する子供たちの学びをより豊かにするためのプログラム制作や、市民や企業の皆様と地球にやさしいスタイルを創り上げる「STYLE PARTNERS」を通じて、オール横浜でEXPOへの体験を作っていくます。

- GREEN×EXPO 2027の開幕に向けて、
- ・市内大規模イベントや国際会議等におけるPR、
- ・歓迎ムードを創出するシティドレッシング、
- ・「トゥンクトゥンク」の出演やモニュメントの設置など、期待を高める取り組みを多面的に展開し、より多くの方に来場いただけるような来場喚起に取り組みます。

5 世界に誇れる都市づくり

サーキュラーリンクの推進

サーキュラーエコノミーが国際的な潮流となっていく中、横浜市の都市特性を生かした**循環型都市への転換**を進め、これらの取組を**広く世界へ発信**していきます。



「たべる」サーキュラー 横浜の「農」を活かした食の循環



「つなぐ」サーキュラー 動脈連携により、再生資源のさらなる活用を目指す



「つくる」サーキュラー 社会情勢変化を経済成長のきっかけにつなげる



「くらす」サーキュラー 資源の宝庫である「建物」のサーキュラー化



「とりくむ」サーキュラー 身近な取組から未来を変えていく



「みえる」サーキュラー 物質循環の流れを「見える化」

YOKOHAMA
CIRCULAR
LINK



5 世界に誇れる都市づくり

サーキュラーリンクの推進

「たべる」サーキュラー 食品廃棄物等を活用した循環の推進

新規

〈60百万円〉



「つなぐ」サーキュラー 製造業とリサイクル業の連携促進

新規 拡充

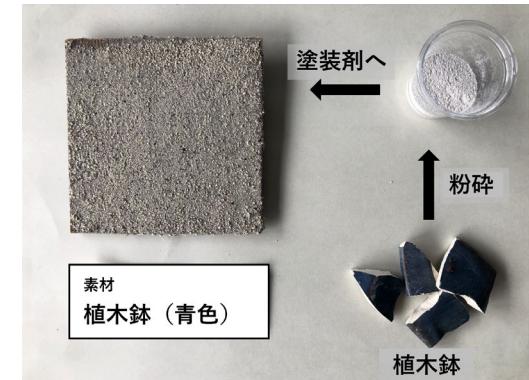
〈50百万円〉



「つくる」サーキュラー 産業のサーキュラー分野支援

新規 拡充

〈22百万円〉



身の回りの素材を粉碎して塗料にするキットの開発
(令和6年度 横浜市中小企業新技術・新製品開発促進助成)

- ・食品廃棄物の堆肥化やリサイクル、下水処理で取り出した「再生リン」入り肥料の活用などを進めます。
- ・横浜市の学校の子どもたちが生ごみから堆肥を作り、GREEN×EXPO 2027の会場で使用します。

- ・「横浜市資源循環推進プラットフォーム」を通じ、リサイクル材のさらなる活用(動脈連携)を促進します。
- ・製造業者が求める品質のリサイクル材を確保するため、衣装ケースのような単一素材のリサイクルを進めます。

- ・サーキュラーエコノミー分野に取り組む企業の市内進出等を助成金等により支援します。
- ・市内中小企業の新技術や新製品の研究・開発費用の助成による先進的な取組の後押し、セミナー等による循環型経営への転換の促進を行います。

5 世界に誇れる都市づくり

サーキュラーリンクの推進

「くらす」サーキュラー 公共建築のサーキュラー設計

新規

〈10百万円〉



「とりくむ」サーキュラー 身近な衣類分野でのサーキュラー展開

拡充

〈30百万円〉



「みえる」サーキュラー 公共施設の廃棄物の流れの見える化

新規

〈8百万円〉



建築物の解体のしやすさやリサイクル材の使用率などを数値化して評価する「よこはまサーキュラー指標」を策定します。

併せて、建材を再利用しやすい設計手法や再建材化の仕組みづくりを進め、サーキュラー建築の実現を目指します。

市民の皆様から不要となった衣類を回収し、その一部を再生することで、GREEN×EXPO 2027における横浜市出展施設のスタッフユニフォームに活用します。

市民・企業・行政の協働による本取組を契機として、循環の実感や行動変容につなげていきます。

従来から進めているみなとみらい地区での循環可視化の取組に加えて、市役所関連施設約1,200か所において廃棄物の質と量を見える化します。

見える化したデータを活用し、さらなる再資源化につなげていきます。

5 世界に誇れる都市づくり

カーボンニュートラルの推進

太陽光発電設備等の導入支援

拡充

〈304百万円〉

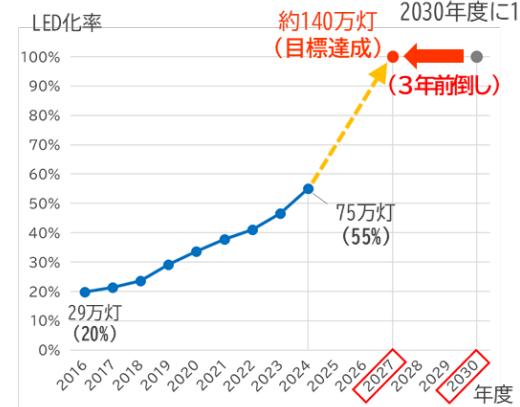


横浜グリーンエネルギーパートナーシップ事業により、家庭向け太陽光発電設備等の導入支援を行うとともに、それにより創出された環境価値を、市内で開催される大規模イベント等で排出される温室効果ガスのオフセットに活用します。

公共施設LED化の推進

拡充

〈10,787百万円〉



一般的な蛍光灯に比べて省エネ効果の高い照明のLED化について、2027年度（9年度）までの公共施設100%達成※を目指し、取組を強化します。

8年度は主に、学校、市営住宅、港湾施設等でLED化を実施します。

※建替え・廃止の計画がある施設などを除く

多様な主体と連携した暑熱対策

新規

〈6百万円〉

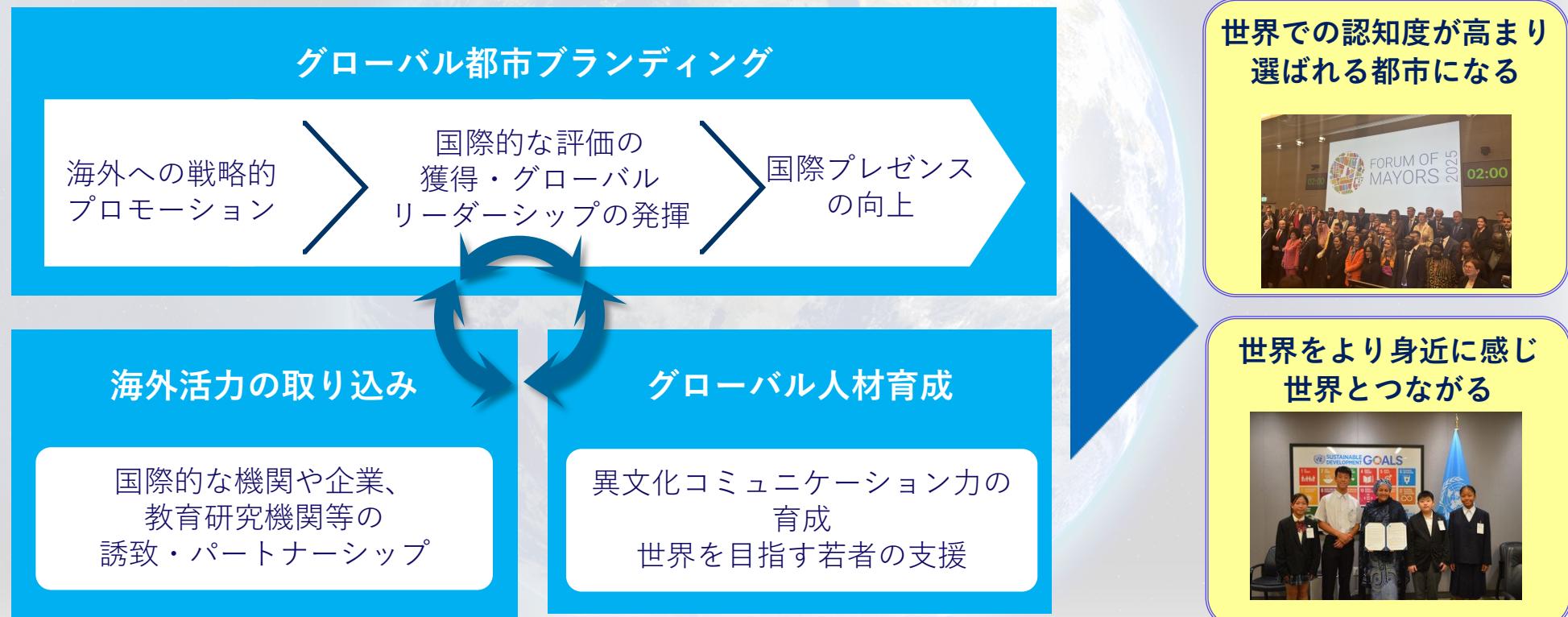


事業者との連携により民間施設等をクールシェアスポットに位置づけ、市民の皆様の利用を呼びかけるとともに、家庭における暑さ対策も促します。更に、企業、大学等と連携した暑熱対策を実施し、熱中症のリスク低減につなげていきます。

グローバル都市の推進に向けて

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国際平和に貢献しながら都市の持続可能性を高めるため、これまで実施してきた国際戦略の取組内容を踏まえ、あらゆる政策を世界目線で捉え直し、横浜のブランド力や活力の向上につなげます。

国際的なリーダーシップを発揮し、**国際プレゼンスの向上、グローバル人材の育成、海外活力の取り込み**などの好循環を生み出し、シビックプライドの醸成につなげていきます。



5 世界に誇れる都市づくり

グローバル都市の推進に向けて

グローバル都市戦略推進事業

新規

〈41百万円〉



From local action to global impact,
Yokohama is driving a circular and sustainable
future.

Explore Yokohama's approach to the circular economy and urban
sustainability, linking cities, businesses, and citizens through key
initiatives shaping future cities.

横浜が世界に誇れる政策を戦略的にプロモートする海外向けウェブサイトを拡充するほか、海外メディアを意識した情報発信の強化、インバウンドやグローバル企業の誘致など、ターゲットに応じた都市ブランディングを進め、国際的な認知度向上に取り組みます。

サーキュラー都市の国際展開

拡充

〈111百万円〉



海外諸都市や国際機関等との知見共有の場である「アジア太平洋循環型都市フォーラム(APCC-Forum)」を開催するほか、循環型都市を推進する国際枠組み「アジア循環型都市宣言制度」の推進などを通して、サーキュラーエコノミー分野での本市のリーダーシップを発揮します。

APUF - 9 横浜開催

拡充

〈27百万円〉



2027年に横浜で開催する国際会議「アジア・太平洋都市フォーラム(APUF-9)」*に向け、広報・プロモーション等の準備を進め、アジアを代表する循環型都市としての地位向上につなげます。

*APUFは、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)がホストシティとの共催により開催する、都市の持続可能な発展をテーマにした国際会議です(4年ごとに開催)。今回が日本初開催となります。

データ駆動型経営への本格移行

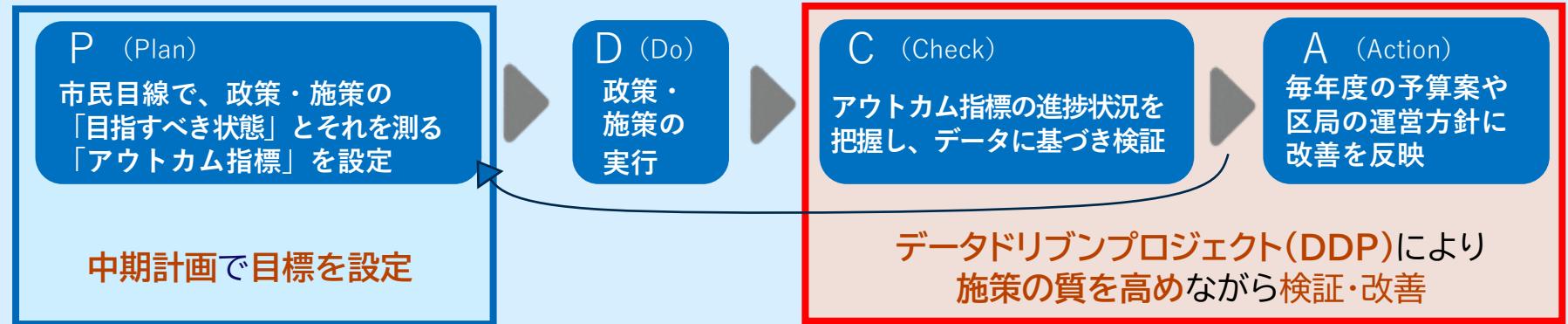
6



6 データ駆動型経営への本格移行

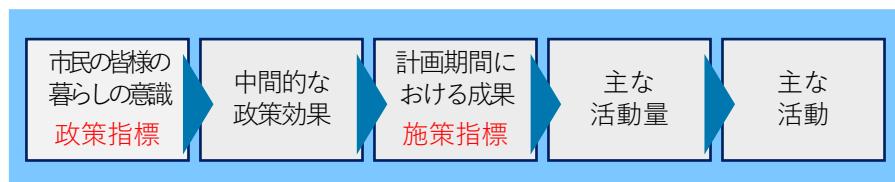
「市民目線の経営サイクル(PDCA)」の中で、「目指すべき状態」と「アウトカム指標」を設定し、進捗状況を適時適切に検証、改善を図ることで、市民の皆様の実感につながる成果を発現します。

市民目線の経営サイクル

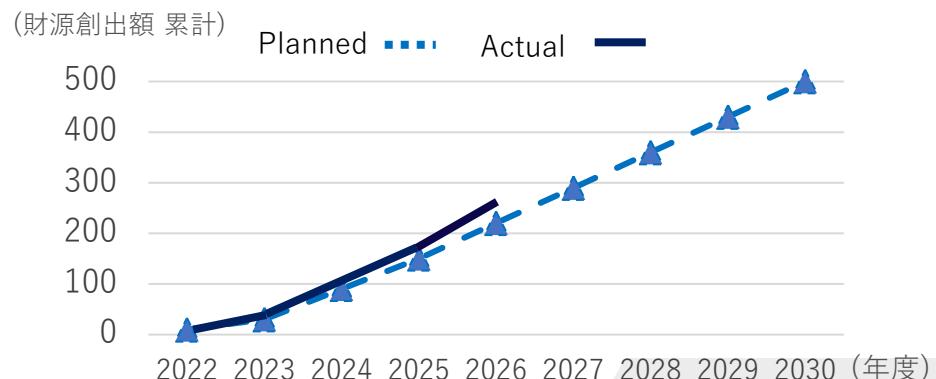


※「横浜市中期計画2026-2029」（素案）P19参照

市民の皆様の実感を軸に、バックキャスティングで政策や施策の進捗がわかるような指標を設定します。



毎年度の予算編成等に反映し、創造・転換による年間60～70億円の財源創出に繋げます。



6 データ駆動型経営への本格移行

「横浜市中期計画2026-2029」の構成等と8年度予算案

市民の皆様の実感を評価の軸として、市民の皆様の暮らしの意識や状態を定期的に把握しながら、毎年度、目標に向けて柔軟に必要な取組や手段を選択・実践し、「市民生活の安心・安全×横浜の持続的な成長・発展」、そして、「明日をひらく都市」の実現につなげます。

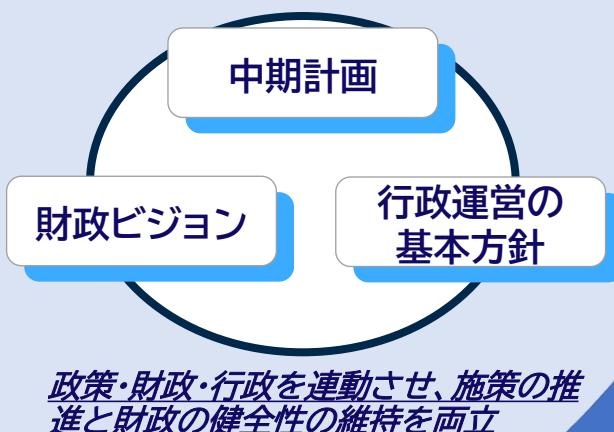


An aerial photograph of the Yokohama skyline, featuring the Minatomirai 21 development with its distinctive twin towers, and the surrounding urban landscape. The port area is visible in the foreground and middle ground, with several cruise ships docked at the piers. The sky is clear with a few wispy clouds.

持続可能な市政の実現に向けて

◆ 市政の礎となる「方針」

- I 横浜市中期計画
- II 行政運営の基本方針
- III 横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン
～市政運営のガバナンスとマネジメントを発揮するためのこうした中長期の行財政方針を土台に、「施策の推進と財政の健全性の維持」を両立



◆ 「3つの方針」に基づく取組

I 新たな中期計画の策定

- ・データ駆動型経営への本格移行
～市民目線の経営サイクル(PDCA)、アウトカム指標の設定、計画と予算編成の連動 等

II 行政運営の推進

- ・便利で安心な市民サービスの向上
- ・行政運営の最適化
～AIイノベーションをはじめとしたDXの推進、BPRによる業務効率化 等
- ～歳出改革 - 中長期的な運営の強化、データドリブンプロジェクト、事業評価の推進 -

III 財政ビジョンに基づく財政運営

- ・減債基金活用の段階的縮減
- ・市債の計画的な活用
- ・ファシリティマネジメントの推進

◆取組の更なる強化

市民目線の施策実現に向けて

18区の多様な地域ニーズや課題等を把握し、施策や事業の参考にさせていただくため、オンライン上で意見募集を行う「デジタルプラットフォーム」を引き続き活用します。

また、地域で活動している団体の皆様と共に、「市長と語ろう！」を実施し、継続した市政運営に関する意見交換を行います。

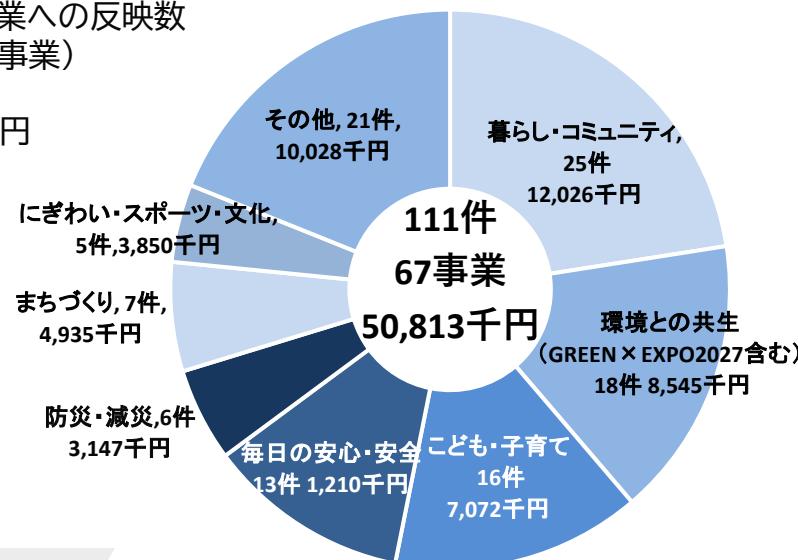


**市長
と
語ろう！**

＜予算案への反映状況＞

デジタルプラットフォームを通じた
市民の意見を踏まえた今回の予算化

- ・自主企画事業への反映数
111件(67事業)
- ・予算額
50,813千円



市長と語ろう！を通じた市民の意見を踏まえた
今回の予算化

- ①地域における防災意識・減災力の向上
→次世代の地域防災を支える人材(中学生)育成
プログラムの事業費と地域防災拠点の実効性向上
に向けた分析に係る検討費を計上
- ②GREEN×EXPO 2027開催に向けた取組
→「STYLE PARTNERS」における、高校生など
若い世代との創発機会の確保

AIイノベーション

AIをはじめとしたデジタル技術の活用により、市民の皆様が必要な情報を素早く取得できる環境を整えるなど、行政サービスの向上を図ります。

また、市民の皆様の声をAI分析により幅広く市政に反映し、市民目線の政策立案を推進します。

＜令和8年度予算案での取組例＞

オンライン手続ナビへの生成AI導入

横浜DIGITAL窓口内で公開しているオンライン手続ナビに、生成AIを導入します。AI導入が話し言葉での質問に対するインタラクティブな対応を可能にし、ニーズにあったオンライン申請を案内します。



AIによる市民の声の分析・解析及び見える化



市民の声を集め、AIで分析する「ブロードリスニング」に取り組みます。

AIによるニーズの深掘り、市民意識の経年変化、区別比較など見える化する仕組みをつくることで、市民目線の政策立案へつなげます。

持続可能な市政の実現に向けて —8年度の取組（体制の整備）—

市民の皆様の信頼に応え、必要な施策を推進する体制の整備

防災・減災対策と危機管理体制の強化

防災・危機管理統括本部の設置

「横浜市地震防災戦略」の実現に向け、市民の皆様の命と暮らしを守り、「自助」「共助」「公助」の取組を一体的に進めるため、防災・減災対策の全庁的な司令塔機能を発揮するとともに、有事における機動的かつ迅速な対応を図る「防災・危機管理統括本部」を設置します。

グローバル都市戦略の推進

グローバル都市プランディングの充実

グローバル都市としての競争力と発信力を強化するため、「国際局からグローバルネットワーク部門等を政策経営局へ移管し、政策経営局の名称を政策経営・国際戦略局」に改めます。

国際平和と多様性を尊重する社会の実現

国際平和と在住外国人・共生社会、男女共同参画について、多様性の尊重という観点から一体的に政策推進を図るため、「国際局の総務部門等と、政策経営局の男女共同参画部門を市民局へ移管」します。

データ駆動型経営の実現に向けた組織体制の整備

行財政局の設置

データ駆動型経営の実現に向けた政策の推進に向け、デジタル技術の活用による業務効率化や行政改革を強力に推進するとともに、行政・財政運営面での統括機能を一元化した「行財政局」を設置します。

都心部・臨海部から郊外部に至るまちづくり

都市の持続的な成長・発展

都心部・臨海部から郊外部に至るまちづくり政策の推進に向け、「建築局の都市計画部門と、財政局の公共事業調整部門を都市整備局へ移管」するとともに、都市整備局に「まちづくりプロジェクト推進部」を設置します。

移動手段の充実と魅力ある移動空間の形成

市民の移動手段の確保と魅力ある移動空間の形成に向け、「交通政策部門を都市整備局から道路局へ移管」し、道路局の名称を「道路・交通政策局」に改めます。

総務局の機能整理

安定した行政運営を継続する基盤となる体制を整え、組織全体の統制力の向上に向けたガバナンス強化を実現するため、「総務局の機能整理」を行います。

8年度予算編成における財源創出(件数・額)

※一般財源ベース

※（）は「創造・転換」による財源創出

1,280件
(617件)

212億円
(88億円)

◆ 8年度予算案では、中期計画の実現に向けて、

- 市民の皆様の今を支え、子どもたちや将来の市民のための持続可能な市政の実現に向けた行政サービスの最適化
- 必要な施策・事業のための財源創出

これらを踏まえ、「令和8年度予算編成の歳出改革基本方針」に則りつつ、市民生活や市内経済への影響を考慮しながら、歳出・歳入の両面から、「創造・転換」を理念とする歳出改革に引き続きしっかりと取り組みました。

会計名称	令和8年度	令和7年度	増▲減	増減率
一般会計	2兆993億円	1兆9,844億円	1,149億円	5.8%
特別会計	1兆3,514億円	1兆3,649億円	▲135億円	▲1.0%
公営企業会計	6,193億円	6,387億円	▲195億円	▲3.0%
総計	4兆700億円	3兆9,881億円	820億円	2.1%



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

Photo credit : Yokohama City Visitors Bureau